



突端ではカラフル 防寒着の釣り人

○：寒が盛りとなってきた。冬を迎えた漁港ではすでに一仕事を終えた漁師たちが、網の繕いに余念がない。

○：彼らの朝は早い。夜明け前の五時過ぎ。三々五々、港へ

入り、岸壁につないである小舟に乗り込む。時に海面一帯が幻想的になる。真冬の象徴、「気嵐（けあらし）」が広がる中、沖へ向かう。

○：漁の対象は伊勢エビ、ヒラメなどなど。前日に仕掛けた刺し網を引き上げ、およそ一時間帰港し、水揚げした魚介は次々といけすへ。この漁港では

寒中2題 気嵐の中、沖へ 帰港後は網手入れ



網の手入れをする漁師たち。真冬を迎えた漁港はさまざまな光景が=小浜漁港

間もなく名物の「タコ漁」も本番を迎える。

○：一方、週末にもなると、漁港そばの路上には釣り愛好者たちの車が並ぶ。会津、那須、水戸など市外ナンバーを合わせて二十台近くになり、「朝の四時に来たよ」という人も。

○：竿（さお）をさす、港の突端は、カラフルな防寒着姿の人、人、人。釣果の代表は、アジのようだ。

めひかり塩チョコ 「会津山塩」が受賞

東北六県の新しい土産品を審査する「第十二回新東北みやげコンテスト」で、小名浜、いわ



きチョコレットの「めひかり塩チョコ会津山塩」II写真IIがベストユース特別賞に選ばれた。いわき市からの受賞は唯一。同コンテストは、土産品の発掘や育成、魅力発信を目的に、仙台市産業振興事業団が実

施。二〇二三（令和五）年七月以降に販売またはリニューアールされた商品が対象。今回は二百五十一名の応募があり、十品が各賞に輝いた。

同特別賞は、地元大学生が「自分で買ってでも誰かにあげたい」という観点から審査をして決定。受賞商品は、同社の看板商品「めひかり塩チョコ」をベースに、使用する海塩を「会津山塩」にかえた特別版。まろやかな塩味が、甘味を引き立たせる。商品は十個入りで千八百三十六円（税込込み）。エスパルいわき店や観光施設で販売中。問い合わせは、同社（電話五三一二六五）まで。

アートの豊か自然や伝統文化 中之作の清航館など巡る

県内の豊かな自然や伝統文化を「アート」ととらえ、歩きながら魅力を感じる「ふくしまアートウォーキング」の一環で、内堀雅福福島県知事は十二月一日、中之作地内を巡った。

足を運んだのは、レンタル古民家「清航館」と空き家を改修したゲストハウス「enotto（エノト）。泊まれる港の公民館の二カ所。東日本震災で被災した街並みを残そうと活動する「NPO法人中之作プロジェクト

ト」が手掛けた建物で、豊田千晴理事長や内田広之いわき市長らが案内。

このうち清航館は築二百年を越す施設で、豊田理事長は「震災後、柱もすっかりしてゆがみがなく、再生できると感じたと紹介。内堀知事は「ピフォーアフターというより、ピフォーベターですね」と感心し

清航館を訪問した内堀知事



ていた。

ふくしまアートウォーキングは、健康づくりを支援する県民運動の一つ。内堀知事の市内実施は初。訪問の様子は県のHPに掲載され、PRされている。